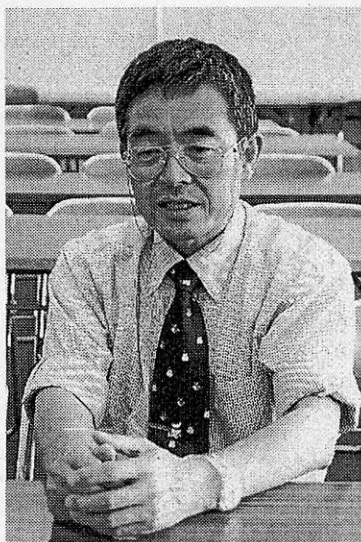


びわこの
考湖学



大沼芳幸調査普及課長

第2部では「信仰」を取り上げるということですが、その意図は

過去の人たちが琵琶湖に対してどのような思いを抱いて接してきたか。そしてその思いがどのような文化財として現れ、残されているかを知った上で、ここに学び、未来に向けて琵琶湖とどのように接していくべきかについて、読者の方々と考えてゆきたいと思っています。

連載の流れは

琵琶湖に住まう神々の話をはじめ、聖武天皇の紫香楽遷都のような、よく知られた歴史についても琵琶湖への信仰

という切り口から紹介していきます。

連載の初めには伊吹山とヤマトタケルの話を紹介しますが、伊吹山と琵琶湖は関係ないように見えますが、琵琶湖に注ぐ水の水源は山であり、その中でも近江最高峰である伊吹山には、水に対する信仰が色濃く残っています。この琵琶湖の水源の神に大和朝廷のヤマトタケルが挑み、大敗を喫するという、象徴的な話から始まります。

また、比叡山延暦寺、日吉大社、三井寺、多賀大社など観光客が大勢訪れる社寺についても、水や琵琶湖に対する

大沼芳幸・調査普及課長にインタビュー①

信仰という、新たな視点から紹介してゆきます。

ここで、読者の方々にお願いたいのですが、連載を読まれ、地元にもこんな水に関する行事やしきたりがあるとか、水の神様がいらっしやるといった情報をお寄せください。是非取材させていただけ、随時連載の中に取り入れたいと考えています。読者と

一緒に連載を充実させていきたいですね。

——琵琶湖を巡る信仰は時代とともに変化しているのですか

水資源という狭い価値観から琵琶湖に接している現在、琵琶湖に対する信仰は薄れてきていると思います。昭和30年代までの生活は、琵琶湖の水が生活と直接結びついてい



伊吹山山頂から望む琵琶湖 (米原観光協会提供)

ました。例えば、琵琶湖に棧橋を出し、沖の水は飲み水に使い、汚れものは岸近くで洗い、小魚に食べてもらう。琵琶湖の中にはさまざまな恵みをくださる神様がいらっしやるから、琵琶湖を汚してはいけない、という気持ちが強くあったと思います。このような気持ちが現代の人たちの心によみがえれば、琵琶湖にゴミを捨てたり汚したりすることはできないはずです。

この連載で取り上げる琵琶湖に対する信仰とは、宗教ではありません。琵琶湖に接することにより、一人一人が琵琶湖にかかわる当事者として、琵琶湖の魅力を感じ取り琵琶湖を大切に思う気持ちです。

今回の連載が、琵琶湖を命のゆりかごととして大切に接してきた過去の人たちの思いと、これが形となった文化財を通して、今の人たちの琵琶湖に対する関心をより深めるきっかけになればと願っています。

琵琶湖への信仰深めたい